

若手研究者から見た学術研究の 課題等について

－国際的な競争力を持つ人材育成の
観点から－

愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 寄生
病原体学部門 准教授
石野 智子

自己紹介

東京大学理科II類入学

東京大学薬学部卒業

東京大学大学院薬学系研究科 博士課程修了（薬学博士）

ーココで大きく研究テーマを変えるー

三重大学医学部にてポスドク研究員 3年間（未来開拓事業&CREST）

三重大学医学部 任期付助手 2年間

三重大学医学部 論文博士号取得（医学博士）

ー海外留学するー

フランスパスツール研究所 ポスドク研究員 2年8ヶ月（日本パスツール協会奨学生&日本学術振興会海外特別研究員）＜助手は休職＞

愛媛大学大学院 医学系研究科 准教授

文部科学省 研究助成課 学術調査官併任 2年間



フランス パスツール研究所に研究留学

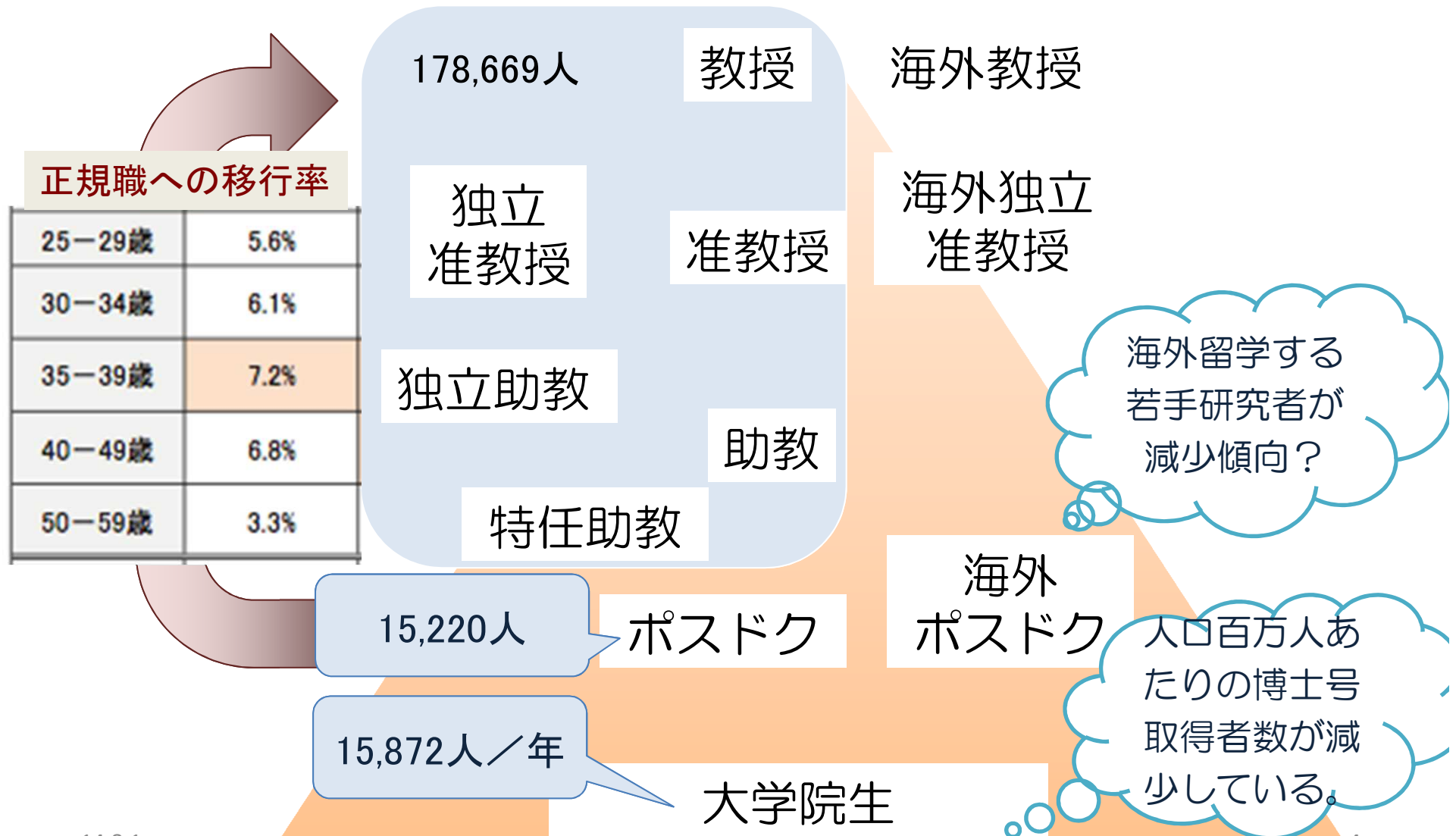
1. 新しい視点。
2. 尊敬し合える研究仲間。
3. 著名な研究所に対する漠然とした畏怖の念の消失。
4. 科学雑誌出版会社の運営システム等を身近に感じる。
5. 哲学が基盤となった科学研究推進の方法を感じる。
6. コミュニケーション能力の向上。
7. 研究を楽しむ心のゆとり。
8. チームとしての研究遂行。

ゆとり、人脈、経験(自信?)

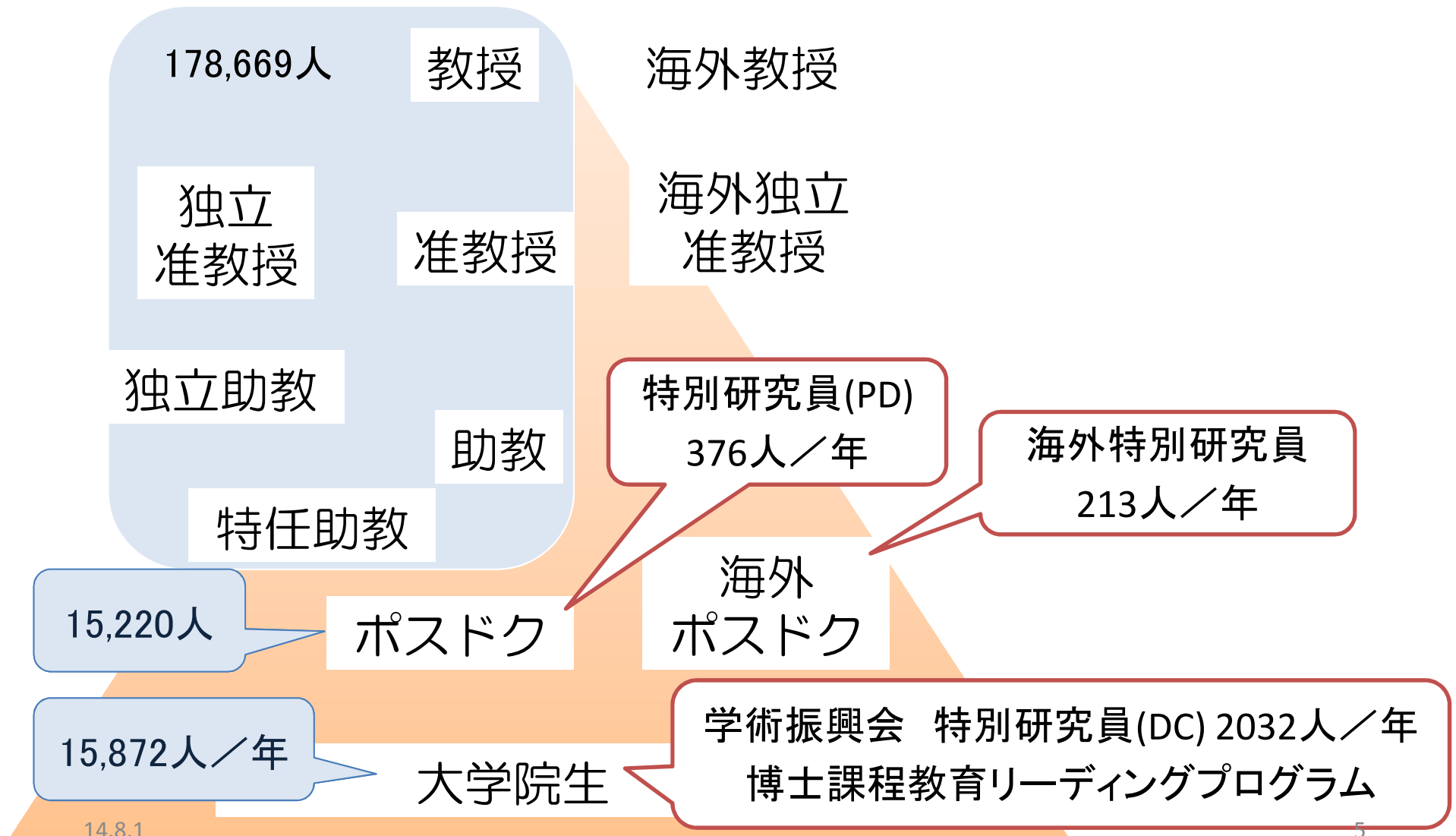
1. 仕事の効率が悪い
2. 研究プロジェクト、研究資源に関して責任が取れない。
3. 業績面では分断され、継続的な論文発表ができない。
4. 研究を継続できるかどうかの不安。



研究者のキャリアパスの例



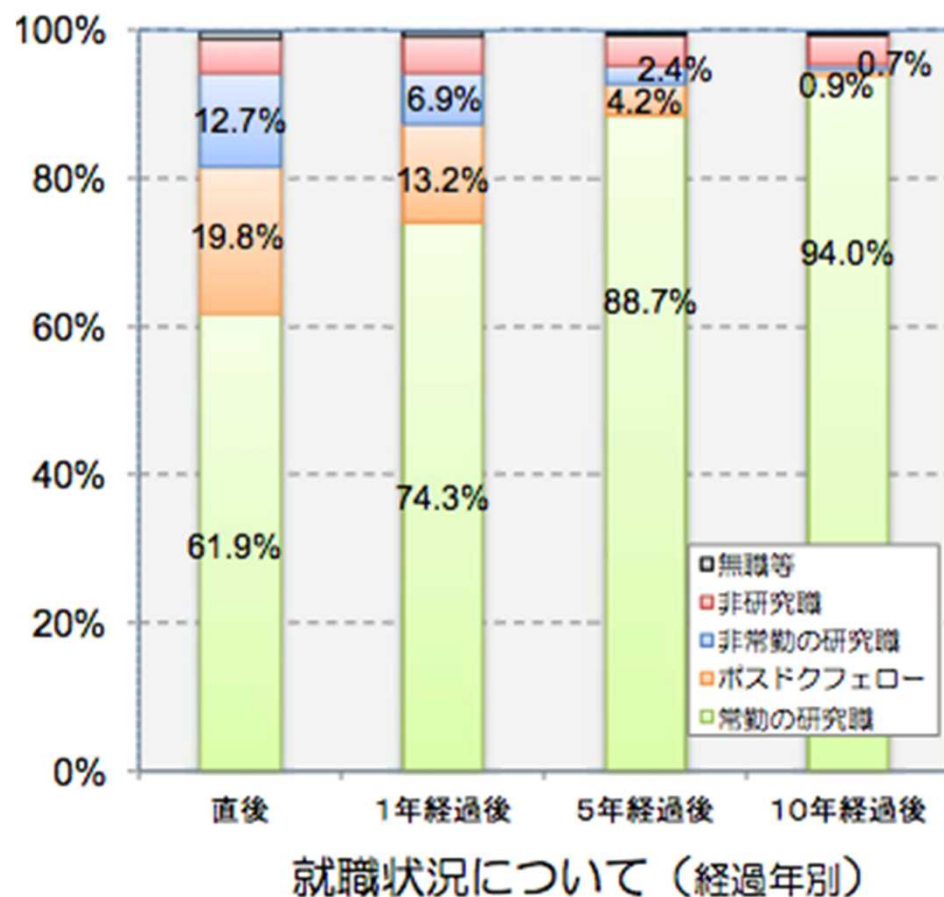
キャリアパスを支援する現行システム



日本学術振興会ポスドクのキャリアパス

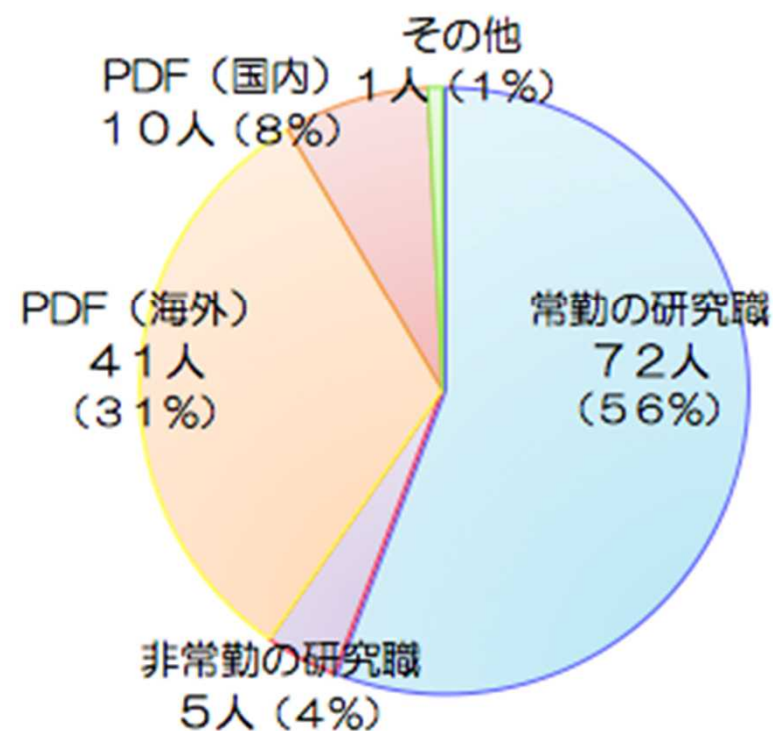
特別研究員(PD)

平成25年4月1日現在

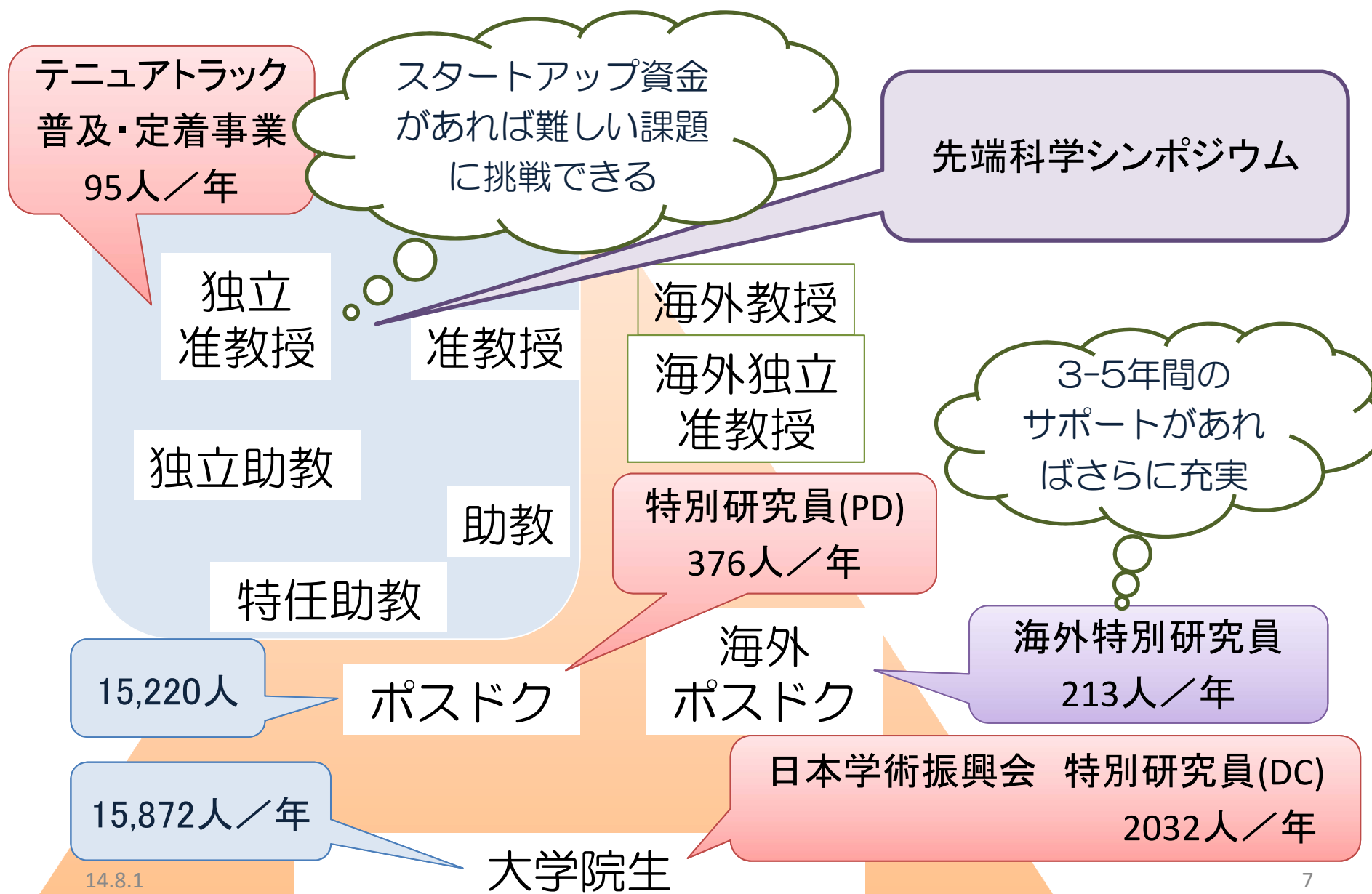


海外特別研究員

採用終了後の身分



優秀な研究者の育成を加速させるシステム？



国の資源としての人材資源の確保・育成の方法？

質問	分類	指数値 2013	指数変化 (全回答)
現状として、望ましい能力を持つ人材が、博士課程後期を目指しているか	研究人材	 3.2	-0.35

178,669人

独立
准教授

教授

准教授

海外教授

海外独立
准教授

幅広い人材の確保・育成
常勤研究者以外のキャリア
アップの拡充

独立助教

助教

特任助教

15,220人

ポスドク

海外
ポスドク

海外特別研究員
213人／年

15,872人／年

大学院生

日本学術振興会 特別研究員(DC)
2032人／年

若手研究者へのアンケート-1

- 1 ポスドク経験でよかったこと、悪かったこと
- 2 留学経験でよかったこと、悪かったこと
- 3 留学した（しなかった）一番の理由
- 4 自立した若手研究者を増やす為に、留学しやすい環境を整えるべきか
- 5 若手研究者支援で最も有用だと思われる物は何か
- 6 自立した（国際的にリーダーシップを発揮できる）若手研究者の育成には何が重要か
- 7 それをサポートする為にどんなシステムが必要か
- 8 現在の所属を選んだ理由は何か

職位	回答数	
教授	2	
准教授・講師	13	海外独立准教授を含む
助教	9	
ポスドク	2	留学中を含む

14.8.1

留学経験	回答数
あり	19
なし	7

9

若手研究者へのアンケート-2

ポスドク経験でよかったこと	
研究に集中できる	16
視野が広がる	4
自立した研究テーマを推進できる	3
交友関係が広がる	4

留学経験でよかったこと	
仕事しやすい、成果が上がる	5
視野が広がる	11
交友関係が広がる	11
一流と接して刺激を受ける	4
英語&コミュニケーション能力の向上	9

ポスドク経験でよくなかったこと	
(次のポジションの) 不安	15
待遇が悪い	4
自立的な研究テーマができない	3
研究が中途半端	3

留学経験でよくなかったこと	
(日本での職探しの) 不安	13
待遇が悪い	1
自立的な研究テーマができない	1
生活、仕事面でのストレス	3

「若手研究者の海外での研究機会を拡充し、国際的リーダーに育てる」

自立した若手研究者を増やす為に、留学しやすい環境を整えるべきか

そう思う	10
そう思うが、それで十分とは思わない	10
既に十分である、そう思わない、わからない	6

研究環境に関しては日本国内で十分世界レベルである。

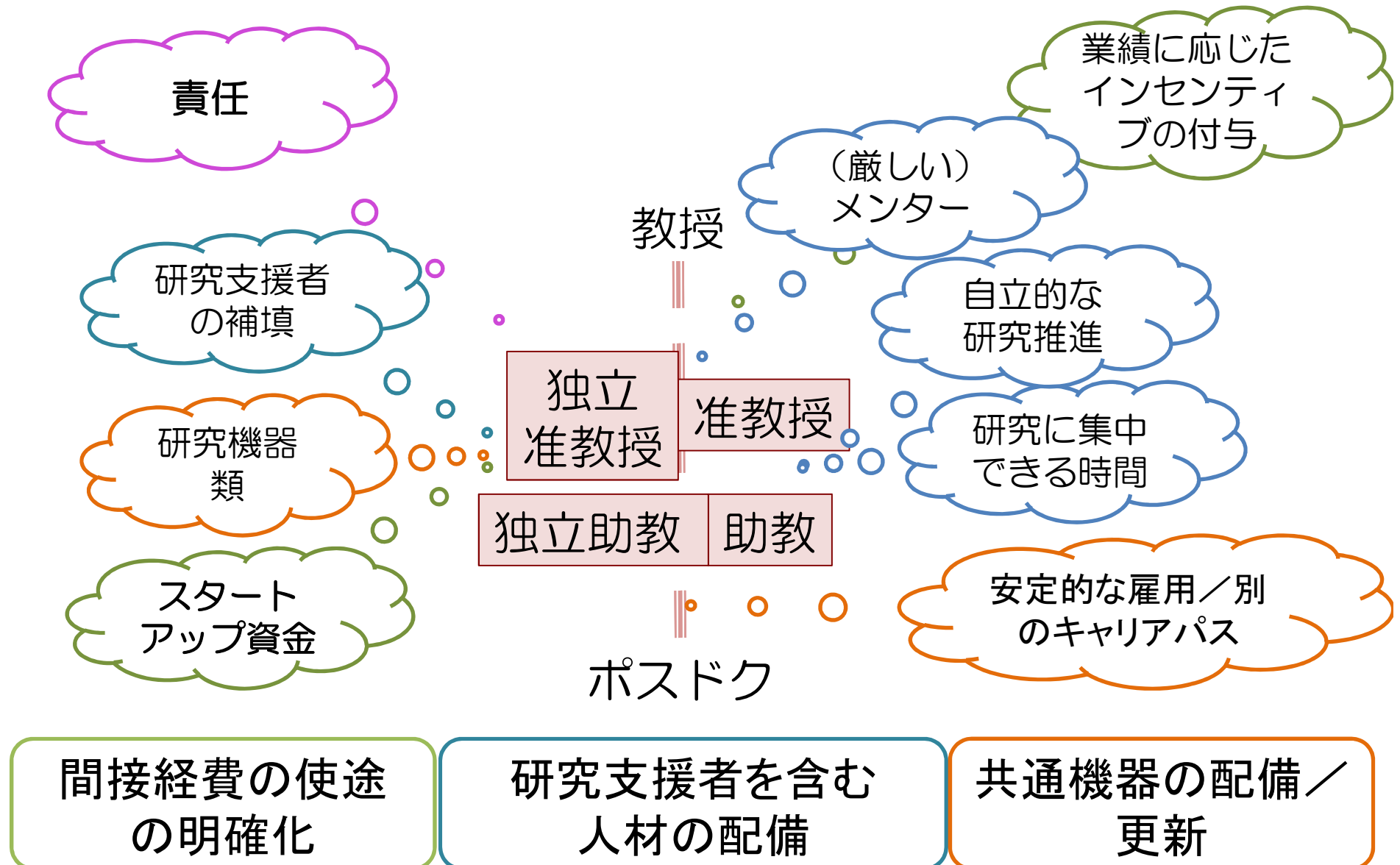
多様性の実感、視野の転換、国際社会のあり方を学び、協力&切磋琢磨できる友人を世界中に持つ為の留学を促進する。

ある程度成熟した若手研究者が研究留学にチャレンジしやすい環境には、**雇用に対する不安の軽減**と、**通常業務の分散**が不可欠。

1. 常勤職の公募システムを明瞭にする
2. 国内のポジションを残したまま留学
3. 所属研究室に研究支援者等の補填

柔軟な発想力を持つ若手研究者の育成
(継続的な知の創出に必須)
国際社会での発言力、影響力を持つ研究者の育成

「若手研究者の自立をサポートする 体制の構築・強化」



若手研究者の自立的な研究促進、女性 研究者育成の場としての地方大学の活用 ・・・とその課題

自立した自由な研究環境を求め、
国際的に活躍することを目指す若手
研究者にとって、地方大学が新たな
育成の場所になれないだろうか。

また、職住近接が可能なので、子育
て中の女性研究者が限られた時間で
能力を発揮する目的での地方大学の
活用はできないのか。

（高額）共通機器の配備&更新
及び、研究支援者の優先的な配
置により、地方大学がインキュ
ベーターとして活躍できる可能
性を模索できないか？